

学級活動学習指導案

日 時 平成 21 年 6 月 5 日 (金) 第 2 校 時
対 象 1 年 4 組 (男子 20 名・女子 20 名) 計 40 名
指導者 教 諭 佐 伯 暁 仁

1 テーマ 「男女のかかわりについて考えよう」

2 学習指導要領との関連

活動内容 (2) 適応と成長及び健康安全
エ 男女相互の理解と協力
ク 性的な発達への適応

3 テーマ設定の理由

近年、都市化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会において社会性を身につける機会が減少し、望ましい人間関係を築く力などの社会性を身に付けにくくなっている。また、情報化の進展により、マスメディアによる性情報の氾濫や、情報機器を利用しておこる出会い系サイト関連の事件など、中学生を含む若者を取り巻く、性に関する状況は大きく変化してきた。この中学生の時期は、二次性徴を迎え、男女の身体的な特徴が明確になるとともに、異性への関心の高まりや性衝動が生じるなど異性に対する感情などの心理面での変化も顕著となる時期である。その一方、男女における身体面や精神面での違いに対する理解や、異性と人間関係を築くに当たったのルールやマナーについての理解が十分でないという状況も見られる時期でもある。

これまで、性に関する指導は文字通りの意味での「性」について学習するという部分が誤解されたり、一人歩きする傾向が見られた。しかし、新しく学習指導要領が改訂され、学級活動の「ク 性的な発達への適応」では、「性に対する正しい理解」は、「人間尊重の精神に基づく男女相互の望ましい人間関係の在り方などと結びつけて指導していくことが大切」とされた。学年や学級という集団の中で、話し合い活動や体験的な活動を通して、よりよい集団を創り上げるような特別活動において、男女のかかわりを大切に考える性に関する指導の重要性はより高まっていると考えられる。

本学級の生徒は、中学校に入学して2ヶ月あまりが経ち、学級・学年における人間関係も徐々に深まりつつある。行事や学級での活動も、例えば、一日遠足でのムカデ競争や学級紹介の練習などには、中学1年生らしく男女が協力して、和気あいあいと取り組んできた。また、授業における話し合い活動等においても、互いに遠慮することなく発言し合い、積極的にかかわり合う様子が見られた。しかし、発達段階における男女の差が様々な活動で見られる。男子が精神面で幼さを感じるのに対して、女子は異性に対する意識が芽ばえるなど、大きな差を感じる。

そこで本題材では、学級内で取り組む男女がかかわりあう行事等について、それぞれの性の立場から考えたり、話し合ったりする活動を通して、男女の考え方や行動の違いについて認識させたい。その際、生理的側面・心理的側面・社会的側面という三つの側面から理解させたい。この時期に、男女の違いについて認識し合い、将来、男女が相互の特性を生かしながら社会を築いていこうとする態度、すなわち、男女共同参画社会への理解をはぐくむことは重要な意義をもつと考える。そして、その取組を通して、男女の価値観や考え方を尊重しながら、集団として高め合う意欲と態度を育てたいと考え、「男女のかかわりについて考えよう」というテーマを設定した。

4 本校における性に関する指導の主な内容

【第1学年】

学年指導目標 からだの発達と男女の特性を知り、性情報の正しいあり方を知る。

主題・内容	系統での内容	主 な ね ら い	主な側面			扱う主たる教科
			生理的	心理的	社会的	
体の発達	性の生理的発達	○ 二次性徴に伴う心身の変化を正しく理解させ、性に関する悩みを主体的に解決しようとする態度を育成する。	○			保健体育
男女のかかわり(本時)	異性の友人	○ 男女の違いや異性への関心を理解させ、互いの人格を認め合い、協力していける態度を養う。		○	○	特別活動
性とどう向き合うか	性情報と対応	○ 性的嫌がらせが、相手にどのような影響を与えるかを理解させ、性被害の内容・原因を知るとともに、被害から身を守る方法を考えさせる。			○	保健体育
正しい異性理解	異性の友人	○ 異性を興味本位の関心や単なるあこがれとしてではなく、人間として相手の人格を尊重する心情を育てる。		○		道徳

【第2学年】

学年指導目標 男女相互の敬愛精神を高め、生命尊重の精神を養う。

主題・内容	系統での内容	主 な ね ら い	主な側面			扱う主たる教科
			生理的	心理的	社会的	
性機能の成熟	生命の誕生	○ 受精から出産までの過程を理解させるとともに、生命誕生の神秘性に触れさせ、生命尊重の精神を養う。	○			保健体育
恋愛を考えよう	性的欲求と性行動	○ 成長するにしたがって異性への関心が高まり、男女の考えに違いが出てくることを理解させ、異性との交際の在り方を考えさせる。		○	○	特別活動
性情報とその選択	性情報とその対応	○ 性情報の現状を知り、性情報は正しい判断を基にして、選択していくことが大切であることを理解させる。			○	保健体育
正しい異性理解	異性の友人	○ 異性の特性や違いを正しく受け止め、ひとつの人格としてその尊厳を重んじようとする態度を育成する。		○		道徳

【第3学年】

学年指導目標 男女の望ましい人間関係のあり方を理解し、適切な行動選択の能力を養う。

主題・内容	系統での内容	主 な ね ら い	主な側面			扱う主たる教科
			生理的	心理的	社会的	
性感染症の予防	性に関する病気	○ 性感染症に関する理解を深めさせ、責任ある行動がとれるようにさせる。	○			保健体育
男女の理解と協力	現代社会の男女のあり方	○ これからの男女関係の中で起こるであろう場面で、自分の気持ちを見つめながら、互いの人格を尊重し合える関係を考えさせ、判断する能力を養う。		○	○	特別活動
性と社会	性と社会	○ 性犯罪・性被害についての内容を理解させ、加害者・被害者にならないような心構えをもたせる。			○	保健体育
正しい異性理解	現代社会の男女のあり方	○ 異性についての正しい理解を深め、それぞれのよさを認めながら互いに高め合おうとする態度を育成する。		○		道徳

※ 各主題・内容の実施時期については、その年度における生徒の実態に合わせて適宜検討する。

5 生徒の実態

【事前アンケートの結果】 (H21. 5. 7.実施 対象：1年4組 40名)

(1) これまでの学校生活において、あなたは周りの友だちと協力して取り組みましたか。

○はい 35名 (男子17名 女子18名)

修学旅行, 学習発表会, 運動会, 掃除, 調べ学習, 話し合い活動, 当直活動, 一人一役活動, ムカデ競争

○いいえ 0名 (男子0名 女子0名)

○どちらとも言えない 5名 (男子3名 女子2名)

(2) これまでの学校生活において、あなたは男女で協力して取り組めたと思いますか。

○はい 24名 (男子7名 女子17名)

学習発表会, 調理実習, 掃除, 運動会, ムカデ競争, 修学旅行, 合唱練習, なわとび大会, クラスマッチ

○いいえ 1名 (男子1名 女子0名)

○どちらとも言えない 15名 (男子12名 女子3名)

(3) 異性から言われて、嬉しかった言葉がありますか。

○ある 16名 (男子2名 女子14名)

【男子】 頼りがいがある, がんばれ, すごい, ありがとう,

【女子】 一緒に俺もやるよ, おもしろい人だね, ありがとう, 本をよく読んでるね, 優しいね,
(以下, 生徒が挙げた具体的な事例)

- ・ 絵を描く時に「すごいね」と言ってくれたこと
- ・ 悩みがあった時「どうしたの」と聞いてくれたこと
- ・ 休み時間に友だちが「○○さんってかわいいよね」と男子に聞いたら, 素直に「うん, かわいい」と言ってくれたこと
- ・ 先生に叱られて泣いていた時「大丈夫?」と言ってくれたこと
- ・ 友だちとけんかした時, 「お前にとって友だちは大切だし友だちにとってお前も大切だから, 仲直りした方がいいぞ. もし, できなかつたら相談に乗るからいつでも来い。」と言ってくれたこと
- ・ 悩みを相談した時「お前は常に笑顔だ!」とはげまされたこと

○ない 24名 (男子18名 女子6名)

(4) あなたは、異性から言われて、いやだなと思った言葉がありますか。

○ある 10名 (男子3名 女子7名)

【男子】 悪口を言われた, 気持ち悪い, ださい

【女子】 好きな人の前で「好きなんだろ」とか, その人のことを聞かれた, 馬鹿じゃん, 足遅っ,
お前ふざけんなっ, いやなあだ名を言われた(2名), うるさい

○ない 30名 (男子17名 女子13名)

(5) 学校生活において、男女の違いを感じる場面はありますか。

○大いにある 2名 (男子1名 女子1名) ○少しある 19名 (男子7名 女子12名)

【男子】 持久走の走る距離, 友達の相談できる人, 制服, 女子は気が強い, 考え方, コソコソ話

【女子】 更衣室, 話す内容, 持久走の距離, 叱られた時の先生の接し方, 休み時間の過ごし方, 声の高さ

○ほとんどない 19名 (男子12名 女子7名)

○全くない 0名 (男子0名 女子0名)

(6) 7月に開かれる球技大会は、どのような形で開かれた方がよいですか。

○男女別々にチームを編成する 20名(男子9名 女子11名)

【男子】 体力、戦力、男子だけだとしゃべりやすい、手加減しなくて済む

【女子】 その方が気が合う、男子は手加減がない、力に差が出るから、休む時に理由を言いにくい

○男女混合でチームを編成する 20名(男子11名 女子9名)

【男子】 試合の強さの偏りをなくす、チームの差をなくす、仲間はずれをなくすため、練習の呼びかけが大変でない、全員で楽しめるから

【女子】 ふだんあまりかかわりのない異性同士で力を合わせたい、男女が平等に参加できるように女子の方が運動が得意でない、クラスの絆を深めたい、こういう機会こそ異性とふれあえる

【考察】

本学級の生徒は、明るく元気のよい学級である。教科や学級活動・道徳においても積極的に発表し、授業に意欲的に取り組もうとする姿勢がうかがえる。また、設営コンクールにおいては、兄弟学級である2年や3年の教室の設営を参考にして、自分たちらしい設営にしようと広報委員や学級運営委員を中心に学級一丸となって取り組んできた。さらに、一日遠足でのムカデ競争での結果を受けて、7月の球技大会に向けての気持ちが高まってきている。

しかし、身体面と精神面の両方において、男子の未熟さは顕著なものであり、男女差は大きい。アンケートによれば、まず、「これまでの学校生活において、あなたは男女で協力して取り組めたと思いますか」という質問に対して、女子のほとんどは男女が協力して活動してきたという認識があるのに対して、男子にはそれがほとんどない。また、「異性から言われて、嬉しかった言葉がありますか」という質問に対して、女子は具体的な状況まで説明している者が、4分の3程度いるのに対して、男子にはほとんどいない。つまり、女子には異性としての意識が出てき始めているのに対して、男子には異性は、単なる友達としての認識にとどまっているように感じる。

次に、「学校生活において、男女の違いを感じる場面はありますか」という質問に対して、「大いにある」「少しある」と答えた生徒と、「ほとんどない」「全くない」と答えた生徒とがほぼ半数ずついる。また、「7月に開かれる球技大会は、どのような形で開かれた方がよいですか」という質問に対して、「男女別々」と「男女混合」とがほぼ半数ずついる。ただ、特に後者の質問に対して、その理由として、「男女の力の差」を挙げている者が多かったことから、個人差はあるにせよ、心理面での認識はまだだが、身体面での違いについては、多くの生徒が認識しつつあるように思う。

中学生は、身体面でも精神面でも変化の激しい時期でもあり、個人差や男女差も大きい。このような時期に、男女の違いに気付き、相互の理解を深め、人間として互いに尊重し合えるような態度を育成していくことが重要であろうと考える。そこで、本時では、男女それぞれが考える同性の姿と異性の姿とを比較する活動、同性である架空の他者を創り上げ、それをモデルとして話し合ったり、自分と架空の他者とを重ね合わせたりする活動を取り入れることによって、自分の性に対する理解を深めさせていきたい。また、男女の違いについて幅広く考えさせる活動を取り入れることによって、男女の違いをより理解し、互いに協力しあう姿勢を身に付けさせていきたい。

6 本時の実際

(1) 本時の目標

- ア 自分の発達段階における性に対する認識を豊かにさせるとともに、男女の違いに気付かせる。
 イ 話し合い活動を通して、互いの人格を認め合い、協力する態度を身に付けさせる。

(2) 研究内容との関連

ア 自他の比較や重ね合わせにより、自己理解を深める工夫〔特別活動論文 III-1-(1)〕

自己と他者とを比較したり、自己を他者に重ね合わせたりすることによって、自己に対する正しい認識をもつことができる。そこで、本授業では、ロールプレイの方法を用いて、架空の他者をモデルとして話し合い活動を進めることにした。男女の特性を考え、日常生活の中で異性に対して日頃思っていることを意識させ、考えさせる活動を取り入れることによって、異性と自分の意見を比較させ、自己理解を深められるようにした。

また、自己の性に対する認識は難しいものである。そこで、自己を他人から評価してもらうことによって、「自分にはそういうところがあるんだ」、「やっぱり自分にはこういうところがあるんだ」と感じ、未知なる自己を発見したり、自己について改めて実感させたりする活動を取り入れることにした。また、この活動を通して、性に対する自己肯定感をもたせるようにしていきたい。

イ 話し合い活動を活性化させるための工夫〔特別活動論文 III-2-(1)〕

話し合い活動を活性化させるためには、集団全員が自分の意見を明確にもち、互いの意見を述べやすい方法を積極的に取り入れることが大切である。そこで、異性のかかわる様々な場面を設定して、ロールプレイの手法を用いた男女の望ましい人間関係を築くための体験を通して、今後の異性との望ましい人間関係のあり方への理解を深めさせたい。

ウ リーダーシップやフォロアースhipを培うために効果的な集団編成の工夫〔特別活動論文 III-2-(2)〕

集団で話し合い活動をするときは、リーダーがいることが望ましく、さらに集団の全員がリーダーとフォロアーの役割を自覚しながら活動を行うことが大切である。そこで、話し合いの班を5人ずつの8班に編成した。また、リーダーである学級運営委員が各班に入り、話し合い活動を進めていくことによって活動内容が充実するようにした。

(3) 本時の展開

過程	活動の内容	時間	形態	教師の指導・援助	準備・資料
導 入	1 これまでの学級での取組をふり返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同性だと協力できた。 ・ 異性だと難しい。 </div>	5	一斉	○ 一日遠足でのむかで競争を思い出させる。また、男女別に行われたことを意識させ、男女が一緒にしようとすると、協力することが難しい場面もあることに気付かせる。	ムカデ競争の道具
	2 本時のテーマを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 男女のかかわりについて考えよう。 </div>	2	○ 7月に行われる球技大会の種目が男女混合のバレーであることを意識させ、実施するときに大切なことは何か問いかけ、問題意識をもたせる。		

展 開	3 設定された場面について、どのような方法で対応すればよいかについて考える。 1-4は、明るく行事にも一生懸命に取り組むクラスである。まもなく行われる球技大会に向けて、昼休みや放課後を使って練習に励んでいる。 体育があまり得意ではない生徒Aは、バレーのサーブが入らずに悩んでいた。今日の放課後も、他の友達がコートで練習をしているのに、校庭の片隅で、1人サーブの練習をしている。それを見かけた生徒Bは・・・？	7	個	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒Aという架空の人物について考えさせることによって、集団の雰囲気を壊すことなく、意見を出しやすくさせる。 ○ 考えた対応をワークシートに書かせ、ロールプレイで自分の考えが演じられるようにさせる。その際、実際に自分がその場面に遭遇したら、という設定で真剣に考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>特別活動論文 III-1-(1) 自他の比較や重ね合わせにより、自己理解を深める工夫 ア 他者をモデルとし、自分と他者とを比較したり、重ね合わせたりすることによって、自己を深く理解する活動</p> </div>	ワークシート
	4 自分の考えたはたらきかけで問題を解決する場面を演じ、比較することによって、男女の特性の違いについて考える。 〈生徒A〉 ・ 声かけをする。 ・ みんなのもとに連れてくる。 ・ 一緒に練習をする。 ・ そっとしておく。 〈ロールプレイ〉 ↓ ↑ 〈シェアリング〉	16	班	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女2人ずつと学級運営委員が入るような5人グループで話し合わせる。話し合い活動が充実するように、学級運営委員をリーダーにして話し合い活動を進めさせる。 ○ まず、学級運営委員以外の男女それぞれ同性同士でロールプレイをさせる。次に、はたらきかけられた生徒を固定し、はたらきかけられた生徒を入れかえて、異性同士でロールプレイをさせる。その際、ロールプレイは2回繰り返す。 ○ 2つのロールプレイが終わったら着席させてシェアリングを行わせる。その際、男女の立場を意識させ、異性の気持ちを考えながら、生徒に深く考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>特別活動論文 III-1-(1) 自他の比較や重ね合わせにより、自己理解を深める工夫 イ 他者からの評価によって、自己を深く理解する活動</p> <p>特別活動論文 III-2-(1) 話し合い活動を活性化させるための工夫 イ 活発な話し合いを促す方法の導入</p> </div>	
	5 班で考えた対応について、発表する。	13	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い活動がうまくいっていない班に入り、適宜、助言を行う。 ○ さまざまな対応を発表し合い、認め合わせることによって、男女の考え方の違いについて意識させる。 	
終 末	6 男女について、様々な面で違いが出てくることを理解し、これから自分が異性とどのように関わっていくかを考え、まとめる。	7	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2, 3年の球技大会が男女別に行われるのがなぜか考えることで、心理的側面、社会的側面だけでなく、生理的側面においても違いが出てくることを理解させる。 ○ 今日の授業を受けて、今後自分が異性とどのように関わっていくか考えさせるとともに、男女が互いに協力していけば、これからの行事は成功するという思いを抱かせる。 	ワークシート

(4) 評価

ア 自分の発達段階における性に対する認識を豊かにし、男女の違いに気付くことができたか。

イ 話し合い活動を通して、お互いの人格を認め合い、協力する態度を身に付けることができたか。